

『2 分で読切りニュースレター』

発行 アシストコンサルティング 江尻幸雄



このニュースレターは名刺を交換させて頂いた方へお送りしています。不要な場合は空メールを返信頂ければ次回より停止いたします。この記事が皆様のお役にできれば幸いです。

今回のテーマは、、、『**神戸の銭湯イベント**』です

最近では流石に寒い日が多くなってきました。寒い日には体が温まる鍋物とお風呂が嬉しいですね。できれば温泉に行きたいけど頻繁には無理なので、近場の銭湯やスーパー銭湯に行きます。と言うことで今回は柔らかめのテーマで、近場で見つけたの銭湯の販促イベントについてです。

●オフロ巡りとは

結構、銭湯は好きで、以前東京出張の折、月島で「もんじゃ焼き」を食べた後に地元の銭湯に寄ったことがあります。スーツのまま、。番台のお姉さんから冷たい視線を受けながらも楽しい思い出となりましたが仕事の後の楽しみです。先日も時々行く銭湯に久しぶりに行きました。体の痛いところがほぐれて良いです。

さて、銭湯の番台でB5サイズに折り畳まれた真っ赤な表紙の印刷物を頂戴しました。見ると「神戸三九箇所 オフロ巡り 御朱印帳」と記されており、発行は「神戸市 生活衛生課」の“広報紙 KOBE 湯巡り特別号”。広げるとB2位の大きさで入浴マナーや神戸市内 39 銭湯の簡単な説明、そしてスタンプラリー仕様になっています。獲得スタンプは今日の一つしかありませんが、すでに私は昔の分も含めると 11 銭湯を制覇しています。また旧来からの俗に言う番台は、新たなスタイルとしてフロント型もあることに気づきました。それも 21 銭湯も導入されているのには少し驚きでした。スタンプを集めると景品もあるそうです。以下のサイトには、街歩きを兼ねた湯めぐりマップの提案もありますので、一度ご覧下さい。



<http://www.city.kobe.lg.jp/information/public/kouhoushi/2017/special/1711.html>

●市場としての銭湯の状況とは

銭湯が単独で経営努力をする以外に仲間と協業することで需要の拡大を図る必要に迫られています。平成 26 年時点で全国の銭湯数(私営のみ。スーパー銭湯を除く。)は 4,542 で、都道府県別で兵庫県は第 6 位(207)に位置しています。長期的な傾向で減少傾向にあり、平成 18 年からの 8 年間で見ると全国で 1,784 も減少しています。毎月 20 か所近くの廃業がある計算で、まさしく厳しい状況です。それはライフスタイルの変化、住環境変化、技術の発展、人口減、後継者不足、転業など諸要因が影響していると思われますが、最も大きい要因は浴室の普及(全国 95.5% 兵庫県 95.7%)に伴い銭湯に求める利用者ニーズがだんだんと変わってきたことです。

兵庫県が 25 年末に実施した銭湯利用者 1640 名の出口調査があります。自家浴室の保有の有無で“毎日利用するヘビーユーザー”の延べ人数を見ると、“浴室保有者で 2,198 人、非保有者で 1,358 人”となり、浴室を有している層の方が利用頻度が多いことが読み取れます。仮説として「家の浴室にないものが銭湯にはある」と言うところでしょうか。この点についてマーケティングの再構築が必要でしょう。

私にとっては、大量の熱い湯と広く深い浴槽、そして思い立ったらすぐ行ける距離感が大切です。これからも銭湯がどんなニーズに応じて変化してい

くのか楽しみです。最後までお読み頂きありがとうございます。さあ、御朱印、集めよう。

